

湯田地区 コミュニティだより

2025.9
NO.79



防火・防災訓練 in 湯田地区自主防災会

6月28日(土)、湯田地区自主防災会主催の「防火・防災訓練」が、湯田地域交流センターで行われました。湯田地区の各町内会の役員さんたちが集まり、災害の備えとして研修を受けられました。



開会式の様子です。この後、シェイクアウト訓練とセンターの避難訓練を行いました。



消火器の水を使って火を消す体験をしました。合言葉は「びん・ぼん・ばん」。水の場合は火元を狙います。実際の消火器には消火剤(粉)が入っているので火を覆うように噴射するそうです。消火剤が出ているのはたった20秒。この時間で消えなければ命優先で逃げましょう。



交流センターにおける避難所開設に関するお話があった後、センターにある資機材を使った取り扱いの実務研修を行いました。実際にセンターにある資機材を運び出し、みんなで協力しながら組み立てます。使い心地も確かめました。最後はみんな協力してお片付け。運び出しからお片付けまで参加者全員で行いました。



非常時の救命対応入門コース。心肺蘇生の手順をAEDを利用して体験することが出来ました。



コミュニティ研修視察 in 岩国



7月10日(木)、コミュニティ主催の研修視察を行いました。今回の目的地は、岩国市にある「岩国消防学習館」。様々な模擬体験を通して防災について学ぶことができました。



住宅防火ワークショップ。山口市の火災の原因は、焚火、ごみ焼き、草焼き、不注意がほとんどです。最近ではモバイルバッテリーによる火災も増えていますよね。家の中や周りに火災の原因になる危険がたくさんあることを学びました。



防災シアターは、洪水、高潮、津波や土砂災害などの恐ろしさを、立体的映像から体感しながら学べるバーチャルシアターです。避難経路を確保する大切さなどを学ぶことが出来ました。



震度7まで段階的に大きくする地震体験を、過去に起きた地震のお話を聞きながら体験しました。横揺れと縦揺れ両方を体験。震度6以上になると立っていることも困難です。地震の怖さを身をもって体感できる設備でした。



煙避難体験は、煙が充満した3つの部屋の扉を開け閉めしながら通り抜けます。煙は息苦しく、姿勢を低くして、口をハンカチやタオルで押さえながら非常灯を目印に進みます。停電時の暗闇も体験できました。



6月7日(土)歴史ウォーキングを開催しました。今回は、大村益次郎の足跡を辿りながら鑄銭司地区を歩きました。山口線と山陽本線を乗り継ぎ四辻駅までJRで向かい、四辻駅からは、鑄銭司郷土資料館まで往復約5.5km歩きました。



歴史について学ぼう



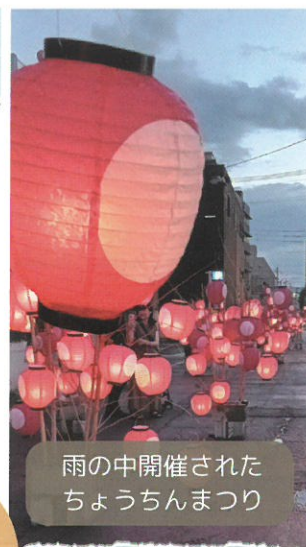
8月2日(土)歴史講演会を開催しました。講師は防長史談会山口県本部山口支部事務局長の平野一枝氏。四境戦争の中でも一番の激戦だった小倉口の戦いについて長州藩と小倉藩、双方の立場からお話いただきました。



夏の体力づくりフェスタ



夏休み初日の朝のラジオ体操♪



雨の中開催された
ちょうちんまつり

七夕ちょうちん
in湯田温泉



夏休み教室

中学生や地域の方
がボランティアで
集まってくれたよ

Yuda's Topics



待ちに待った夏休み、湯田地区では
子供が参加できる講座やイベントが
たくさん開催されていましたよ。
夏休みの良い思い出、出来たかな？



夏休み料理教室



美味しく
出来たよ

きれい
になったよ



湯田地区の清掃活動

小・中学生も
参加して
くれたよ

懐かしの湯田検番



コチ グント シュガリチュキ チュ
『腰の軍刀に縫りつき、連れて行きゃんせ何処までも、

チュ ヤ
連れて行くのは易すけれど、女は乗せない潜水艦』

チェンチュイカン

湯田検番(※1)のお姐さんが唄ってくれた歌が私の子守歌替りでした。湯田温泉の私の生家は色街へと続く道沿いにありましたので、芸妓のお姐さん達がお座敷への行き帰りによく寄ってあやしてくれたそうです。どういう訳か分かりませんが、この歌だけが私の記憶に残っています。もちろん歌の意味を理解していた訳でもありません。子供の頃の思い出のフィルムにしっかりと焼き付いていたのです。

三味線の音色、太鼓の響き。正月になると姐さん達は、特別な黒紋付を着て、髪は日本髪に結いあげ稲穂の簪(かんざし)をつけて、旅館、料亭へお務めに輪タク(※2)に乗って出て行きました。晴れやかな情緒あふれる雰囲気でした。輪タクとは、戦前戦後物資の少ない時工夫された人力車です。

(※1) 検 番：芸妓衆の稽古や、またお座敷への手配・統括を行っていた事務所です。

(※2) 輪タク：輪タクは自転車を使ったタクシーで、ガソリンなど燃料を使わないことから戦後の間もない頃に日本各地で数多く走っていたそうです。



昭和30年代の湯の町風景。錦川と柳並木の風情があり、そぞろ歩きには心地良い場所だったようです。



昭和30年代の湯田温泉街。松田屋前に停車中のバスと芸妓さん。湯田温泉には最盛期には80人ほどの芸妓さんがいたそうです。



#5



西村正伸さん

明治39年創業の老舗旅館「湯田温泉西村屋」(平成29年に惜しまれつつ閉館)の元社長。湯田温泉生まれで湯田温泉育ち。



発行
編集

湯田地区コミュニティ運営協議会
〒753-0056 山口市湯田温泉5丁目5-50
湯田地域交流センター内
TEL 083-902-2231
<https://blog.canpan.info/yudacom/>

湯田コミュニティBlog



湯田facebook



yuda_chiiki



湯田の情報発信しています！